

ブルーグレーの肖像

新章・ACという名の元に

天川 浩

第7回 新章

前回まで6回にわたってHSPIについて述べてきました。書いてみてわかってきたことがありました。

この連載は自伝ではないのですが、自分を当事者の視点からできるだけ俯瞰で見た状況を記述していくことを旨としています。そうした時にHSPという視点だけでは、その状況を描き出すのに不完全だということに気づいてきました。

現在の地球上に生きる人間の苦悩は極めて複合的で、一つの側面だけでは説明ができなくなっているのです。

私はこの現在の日本には、あきらかに福祉は必要ではないのですが、生活に困窮してしまう人が確実に存在していると確信しています。

いわゆる「生きづらさを抱える」人々です。彼らは知的・身体的に何ら問題を抱えていません。教育も形としては義務教育、高等教育をしっかりと修了したことになっています。

しかし、社会に出て、著しく適応が困難な状態に置かれ、自分でも予期していなかった生活状況におかれ、最悪なケースでは自ら命を絶ってしまう場合もあります。

彼らは健康ではなかったのでしょうか？

身体的に全く問題はありません。

彼らは知的に問題を抱えていたのでしょうか？

いいえ、豊かな感受性を持ち、知識も豊富で能力も高いレベルの人達もいます。

では、なぜ命を絶つくらい追いつめられていたのでしょうか？

そこがものすごくグレーなのです。

特に、この日本においては…。

どうしてこんなにグレーになってしまうのでしょうか？

私は未だにわかりません。どうして彼らは何の支援も受けずに、何の相談もせずに、孤独に命を絶ってしまったのか？どうして彼らは福祉に到達できなかったのか？どうして彼らは孤独に至ったのか？どうして彼らの周囲には彼らの死を予感し止めるものがいなかったのか？どうして彼らは生活に行き詰まりを感じていたのか？

私はこのマガジンへの執筆を機会に、たくさんの「？」クエスチョンマークを抱えることになりました。福祉に携わる人はこんなにたくさんいるのに、福祉業界はいつも人手が足りないほどの忙しさを稼働しているのに、毎年、新しい施策が実施されて救われる人がいるはずなのに、何故セーフ

ティーネットの網の目から零れ落ちて命を絶つ人間がでてくるのですか？

それに答えるのはとても難しいと思うし、わかっているのに解決できないゾーンなのだということも知っています。

しかし、その部分を解決できないと、おそらく本当にこれから世界は大変なことになっていくような気がしているのです。

ひとつには複雑になってしまった「核家族化のあとの機能不全家族」の増加が原因であると感じます。

機能不全家族…。

もう一度私は、この言葉を一から調べてみました。

【機能不全家族】

英：dysfunctional family

家庭内に対立や不法行為、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト等が恒常的に存在する家庭を指す。その状態を家庭崩壊、もしくは家族崩壊とも言われる。

「子育て」「団欒」「地域との関わり」一般的に家庭に存在すべきとされる機能が、健全に機能していない家庭の問題を指す。

機能不全家族となる要因としては、家族構成員のアルコール依存、虐待(子供への暴言や威圧的態度も含まれる)、共依存などが挙げられる。更に、このような機能不全的な家庭となっている場合は、その家庭を構成する親、または祖父母などが、機能不全家族で育った可能性もある。

アルコール依存症、ギャンブル依存症、薬物依存症、親の自殺、親の死亡、親の浮気、両親の離婚、親の再婚、親から見捨てられる行為(ネグレクト)、精神的な児童虐待、肉体的な児童虐待、性的な児童虐待(児童性的虐待)、兄弟姉妹間での処遇格差、家庭不和、家庭内の暴力、借金などがある。

機能不全家族の研究家のスティーブン・ファーマー氏(Farmer, S.: "Adult Children of Abusive Parents", pgs. 19-34. Ballantine Books, 1989.)

によると、機能不全家族に育ったものはその家庭内での経験のため、一定の傾向、行動パターンが見受けられる。

これがいわゆる「アダルト・チルドレン」といわれる人々である。

その兆候とは、拒絶、矛盾、家族への無共感、家族間の境界線の欠如、親子逆転、社会からの孤立、曖昧なメッセージ、極端な論争・対立、などが挙げられる。(ウィキペディアより)

彼らは、自分の心の叫びとして、これらを他者に無意識に送っているのだ。しかし、かれらには絶対的な庇護者が存在せず、なぜ理不尽な攻撃に晒されているのかもわからず、その心の傷を誰にも語ることもなく大人になってしまう。

満たされて育った者でも、生きていくのが大変な世の中である。幼少から心に大きな傷を負って、尚且つ、社会で生活していくことに適応しなければならない。

これは簡単な問題でしょうか？

その人達は、本当に、生来だらしなかった

り、弱かったりするのでしょうか？

そして、それらは彼ら自身の責任なの
でしょうか？

しかし、現状では、そういったレッテルを
貼られ、偏見に晒されてしまう。

何故なら、彼らは自分の受けた経験を、
語ることがほとんどないからである。

語る場面さえも用意されていない。全て
自分の中だけで抱え込んで、一人で苦しん
でいるのだ。

ある人は、アダルトチルドレンの特徴が顕
著に現れていても、そのことを認めようと
しません。

何故でしょうか？

簡単な質問です。アダルトチルドレンは社
会的に良いイメージがないからです。良い
イメージがないものを自らにあてはめ、認
めてしまうことを恐れているのです。

「アダルトチルドレン」その言葉の悪いイ
メージや様々な誤った情報が一人歩きして
認知され、一種の社会悪のように捉えられ
ていることが大きな原因になっています。

その誤った情報の一つとしてアダルトチ
ルドレンの意味を「大人になりきれしていない
大人」「子供っぽい大人」などと認識して
いる人が、まだたくさんいるということがありま
す。

子供っぽい、大人になれない、そんなイ
メージが膨れ上がり、だらしのない、ルールを
守れない、などの悪いイメージに変化し、
多くの人に認識されている。

これでは簡単に「私はアダルトチルドレンで
す」と認められないでしょう。

アダルトチルドレンを生み出すのは、その
生まれ育った家庭かも知れませんが、それ
を悪化させているのは、社会全体なのかも
しれません。

多くの人がアダルトチルドレンについて正
しく知ることによって、彼らが安心して、自らの苦
悩と向き合い、癒され、生きる力を取り戻す
ことにつながるのではないかと思う。

ではアダルトチルドレンについて、どう
やって知識を得たらいいのだろうか？

アダルトチルドレンで検索すれば、たくさ
んの情報を得ることができる。

しかし人間は興味のないことや、自らの
利益に関係のないことは調べる機会を得な
いからである。

それは万人に共通のことなので、それを
とやかく言う必要は全くない。

しかし、自分がアダルトチルドレンなの
ではないか、と疑問を持ち克服しようとする場
合はどうだろうか？

これは容易に情報を得ることができるだ
ろう。自覚あるものは、なんとしても必ず結
論にたどり着こうとするものである。その
時、このネット社会は、そういった人間の
大きな助けとなるだろう。

では...自らアダルトチルドレンの特徴を

顕著に備えているにもかかわらず、自らの状態に疑問を持たない人間がいるとすれば、その場合はどうだろうか？

そこにはただ闇が広がるだけである。

足元を照らす灯りを持たぬものが、鬱蒼とした暗闇の森の小道を手探りで手足に傷を作りながら進むようなものである。

背中には何かしら大きな重い荷物を抱えているが、その重量も大きさも、自分にはわからない。得体の知れない大荷物を抱えて、何の灯りもなく、いつ明けるとも知れない夜の闇を、ただただ傷だらけで進んで行く。出口などは見えない。

それが、潜在的なアダルトチルドレンの現状のようなものである。

確かなガイダンスもない。教えてくれる人もいない。比べる人間もいない。何もかもがない...ない...ない。しかし、言い知れぬ不安と確かに何かに対する恐れを抱きながら、苦しんでいる。

そんな人が、今の世の中にたくさんいる。それだけは確実なのです。

知る術もなく、伝えられることもなく、何をどう助けてもらえば良いかもわからない。

私は、この新章で、潜在的なアダルトチルドレンにスポットライトを当てていきたいと思っています。

そして、一人でも多くの人間の目に止まればいいか、と思います。

それを足がかりに、その人の人生が上向きになっていけばという思いだけで、書いて行こうと思います。

私は技術や理論を語れないが、自らの経験と多くの人との交流で得た体験がありま

す。

それで、潜在的に苦しむ人が一人でも減れば良い。

では、次回からは、あなたの知らない世界をお伝えできればと思います。